

## 父と鋏

大恵 やすよ 兵庫県西宮市 四十歳

「この鋏でお前たちを育てた」これが父の口癖です。父は造園業を営んでいました。十代の頃からずっと鋏を動かし続けた父の右腕と肩の筋肉はボロボロで、数年前からは長時間の剪定が難しくなりました。そして昨年ついに、鋏を握り続けることすらできなくなりました。子ども頃、私にとって父はとても怖い存在でした。無口でぶっきらぼうで、まさに職人といった感じの人でした。しかし植物を前にすると父の表情は一変し、穏やかな優しい顔になります。木や花に語り掛ける父が大好きで、庭の手入れをしている父の背中を遠くから眺めていたのを覚えています。「体は動くのに、腕や肩が言うことを聞かないんだ……」と寂しそうに語る父。祖父から引き継いだ会社をたたむことになり、父は家に引きこもるようになりました。買物以外は外へ出ようとしない父。手入れをしない庭は、少しずつ荒れていきました。その後、父は病院でリハビリを受け、以前のように腕や肩が自由に動くことはありませんが、短時間であれば鋏を握れるほどに回復しました。先日、実家を訪れると庭の手入れをしている父の姿がありました。右腕を左手で支えながら、少しずつ作業をする父。一つ一つ丁寧に、植物と対話するように剪定している父は、とても生き生きしていました。荒れ放題だった庭も、父の手によって生まれ変わり生き生きしています。私には、鋏を握る父が新緑のようにキラキラして見えるのです。